



# 『終末の歌姫』

~The Valkyrie of the End~

企画書・プロット紹介

# 神の奇跡か、残酷な呪縛か



## 【歌姫（聖女）】

- 精神干涉の聖歌：戦意向上や敵の戦力減衰をもたらす両刃の剣。
- 残酷な代償：盲目の女性にのみ発現。発現後は歌以外の会話能力を喪失する（筆談・手話のみ）。
- 不老不死の欠如：騎士とは異なり、人間の寿命と脆弱性を持つ。



## 【聖蓮騎士】

- 絶対の盾：歌姫の発現に伴い、ランダムな騎士に強制発現。歌姫に対応する「聖印」が身体に刻まれる。
- 呪われた不死：発現と同時に不老不死を獲得。
- 消滅の掟：歌姫を護れず死なせた場合、騎士は即座に消滅する。騎士同士の同士討ちも仕掛けた側が即消滅する絶対禁忌。

# 光と影が交錯する階層構造(システム・マトリクス)

純粹(教会公認の奇跡)

人工(教会の闇・使い捨て)

女性(歌う者)

## 【歌姫】

真なる奇跡の体現者。強力な精神呼応の力を持つが、不老不死はなく盲目。教会の象徴として崇められる。



## 【魔女(特例歌姫)】

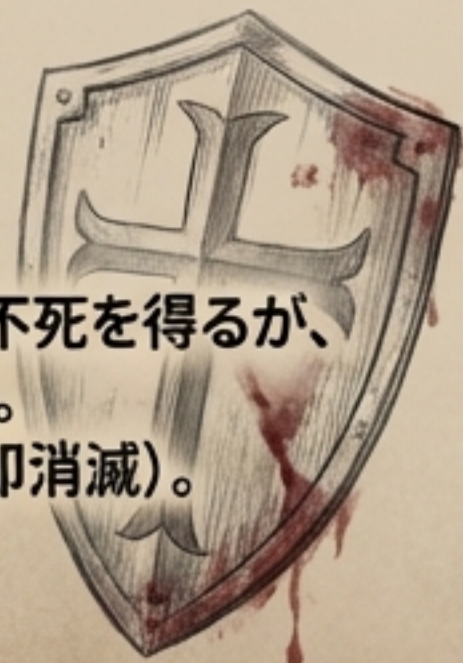
人為的に盲目にされ、強制的に焼印を押された偽りの歌姫。能力は劣るが会話可能。暗殺や拷問など教会の「汚れ仕事」を担い、精神破綻者が絶えない。



男性(護る者)

## 【聖蓮騎士】

歌姫の絶対守護者。不老不死を得るが、歌姫が死ねば自らも消滅。同士討ちは絶対の禁忌(即消滅)。



## 【聖骸騎士】

魔女を護るための使い捨ての盾。不老不死はなく短命。魔女が死んでも消滅はしないが、魔女の死のトラウマを強制共有され精神が崩壊する。決闘は可能。



# 「聖印」のメカニズムと、隠された真実

【連鎖する呪縛のフローチャート】



1. 歌姫の発現：騎士の身体に、対象の歌姫に対応する「有色の聖印」が刻まれる。



2. 歌姫の死（天寿）：役目を終えた騎士の有色の聖印は「無色」へと変貌し、永遠の痕跡として身体に残る。




3. 新たな使命：次の歌姫が発現し、騎士に「新たな有色の聖印」が追加で刻印される。

## 【裏設定：神聖なる教義の嘘】

聖印とは「神に選ばれた者の証」ではない。  
過去に大罪を犯した者にのみ発現する『消えない罪の烙印（カインの刻印）』である。

教会が讃える「不老不死の聖なる騎士」という存在は、実のところ「死による逃避すら許されない、神からの永遠の拷問」に過ぎない。

The illustration depicts a somber scene in a ruined landscape. On the left, a knight in full plate armor sits on a stone ledge, playing a lute. He has a stern expression and visible blood on his armor. To his right, a woman with long hair, blindfolded with a cloth, stands with her hands clasped in prayer. She wears a long, flowing dress. The background shows the skeletal remains of a large stone building, possibly a church, and several smaller, partially destroyed houses. The sky is filled with heavy, dark clouds, suggesting a gloomy atmosphere.

## 名もなき歌と、終わりの見えない旅路

かつて教会屈指の歌姫と呼ばれた女性、グロリア。  
彼女は自らの歌が大嵐虐殺の引き金となった過去を知り、聖歌を拒絶した。

彼女に付き従うのは、過去6人もの歌姫の死を見届けてきた不老不死の猛者、カイン。  
死を望みながらも、過去の歌姫たちが遺した「愛」という名の呪いに縛られ、死ぬことすら許されない騎士。

教会から欠陥品として放任された二人は、各地の荒廃した村や街を放浪する。  
その地に根付いた民謡、御伽話、あるいは世俗の即興歌。  
リュートの伴奏とともに紡がれる「名もなき歌」を通して、彼らは人々の涙と哀しみに触れ、  
絶望の中で微かな救済の旋律を探し続ける。



# 【墮落の歌姫】 グロリア (Gloria)

「私の歌は、もう誰の血も流させない。」

- ・年齢：20歳
- ・髪色：青髪（長髪）
- ・属性：聖女（元トップ歌姫・現在は放任状態）

## 【Character Background】

美しい青髪をなびかせた盲目の女性。かつては教会屈指の歌姫として頂点に君臨していたが、自身の歌が戦場での大量虐殺に直結している真実を知り、絶望。以降、教会の聖歌を歌うことを固く拒絶している。現在は欠陥品扱いを受けながらも、特例としてカインと共に各地を放浪。忘れ去られた世俗の歌や即興の歌を歌い歩き、人々の心に寄り添おうとする。



# 【墮落の聖蓮騎士】

## カイン (Cain)

「この命が尽きる日まで。いや……尽きずとも、君を護る。」

- 年齢：不明
- 守護完遂数：6回（グロリアで7回目）
- アイテム：過去の歌姫たちの遺品、愛用のリュート

### 【Character Background】

グロリアに影のように付き従う、教会屈指の猛者。過去6人の歌姫の天寿を見届けた生き証人。本心では自らの過酷な境遇に疲弊し、一人の人間として死ぬことを切望している。しかし、過去の歌姫たちが遺した「次の子も守って」「私の歌を伝えて」「愛してる」という『思い(呪い)』に縛られ、遺品を身につけ続けている。聖蓮騎士の中で唯一、リュートを奏でる異端の存在。



# 【汚れの魔女】 ジェニー (Jenny)

「黙れよクソ野郎。アタシの歌は、  
神様なんかじゃなくアタシのためのもんだ。」

- ・年齢：25歳
- ・髪色：真紅（ショートウェーブ）
- ・属性：特例聖女（魔女）

## 【Character Background】

人工的に生み出され、教会の汚れ仕事を担わされる「魔女」。口が悪くトゲトゲしい態度をとるが、その汚い言葉は地獄のような環境を生き抜くための武装（鎧）に過ぎない。根は孤独を恐れ、誰よりも愛情と温もりに飢えている繊細な女性。最初はグロリアを始末する命を受けて近づいたが、グロリアの精神的な脆さと純粹さに共鳴し、次第に行動を共にするようになる。精確さよりもパッションが爆発する歌唱スタイル。



# 【狂気の聖骸騎士】

## マックス (Max)

「理由は簡単だ。アンタが辛そうに泣いてたからだよ！」

- ・年齢：24歳
- ・髪色：ブロンド (ボサボサ髪)
- ・属性：聖骸騎士 (ジェニーの護衛)

### 【Character Background】

論理的思考は苦手だが、感受性が強く裏表のない直情的な青年。「魔女 (ジェニー) が辛そうだったから」というただそれだけの理由で、死と精神崩壊のリスクが高い聖骸騎士に自ら志願した異端児。運動神経がずば抜けており、型破りながら高いレベルの剣術を操る。カインカンと剣を交えた際に彼の哀しき剣剣筋に惹かれ、同行を決意。後にカインのリユート伴奏に「樽や箱を叩くパーカッション」ととして加わり、力強いリズムで一行の音楽を支えるドラマーへと成長する。



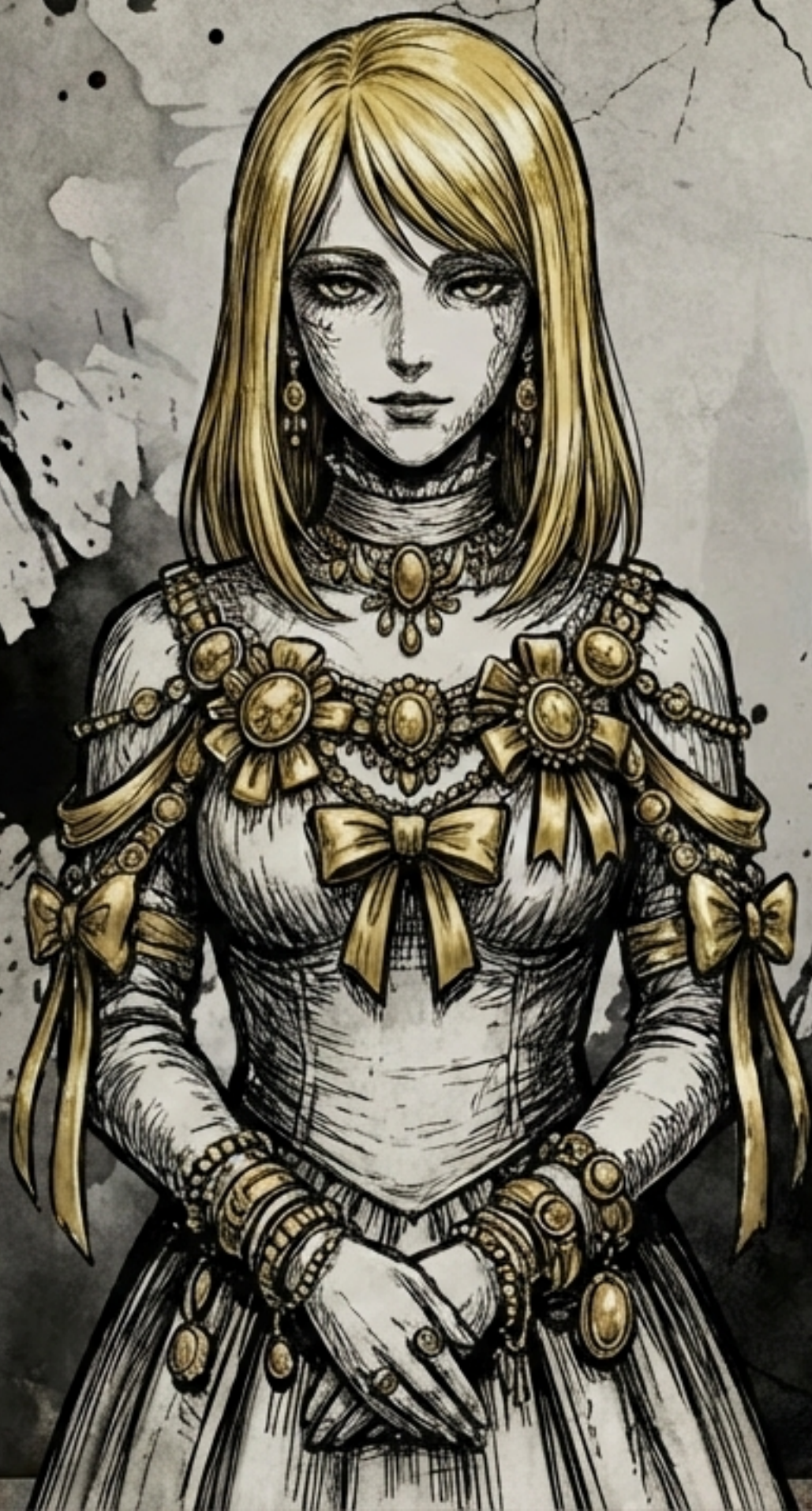
## 【至高の聖蓮騎士】ジュダス (Judas)

「試練を乗り越えよ。  
それこそが、神が与え賜うた唯一の慈悲だ。」

- 年齢：不明
- 守護完遂数：13回（現在14回目）
- 属性：教会最高峰の聖蓮騎士

### 【Character Background】

至高の聖女マティルダに付き従う、教会トップの実力者。  
過去13回もの護衛を完遂し、顔中が聖印で埋め尽くされている。  
敵から傷を負ったことがない卓抜した剣術の持ち主。  
飄々としているが、内面は他者を見下し支配する冷徹な思想の塊。  
歌姫すら自らの目的のための駒としか見ていない。  
カインへの異常な執着を持ち、彼を精神的に破壊することを楽しむ。  
カインとは対照的に、自らが守護した過去の歌姫の遺品を  
「現在の歌姫にすべて身につけさせる」という歪んだ支配欲を持つ。



## 【至高の歌姫】 マティルダ (Matilda)

「ユダス様は正しき神の使徒。  
この試練もまた、御心なのです。」

- ・年齢：27歳
- ・髪色：金髪（ミドルストレート）
- ・属性：現在のトップ歌姫

### 【Character Background】

グロリアの離脱により、現在の教会のトップに君臨する至高の聖女。日常会話のリズムで歌を調律し、会話を行うことができる唯一の離れ業を持つ。

「聖女」を絵に描いたような模範的な人物であり、ユダスのことを神の試練を13回乗り越えた聖人として盲信している。かつてのトップであったグロリアを妹のように可愛がっていたが、その純粹すぎる信仰心とユダスへの愛が、物語において静かな狂気となって立ち上がる。

# 構造的対立とジュダスの盤外戦術

## 【絶対の掟：聖蓮騎士同士の決闘禁止】

この世界では、聖蓮騎士同士が戦うことは神聖規則により禁じられており、仕掛けた方が即座に消滅する。圧倒的実力を持つカインとジュダスは、物理的に直接刃を交えることができない。



## 【絶対の掟：聖蓮騎士同士の決闘禁止】

## 【盤上の蹂躞（システムを利用した精神破壊）】

直接カインを壊せないジュダスは、盤外戦術を用いてカインの心を削り取る。

- ・カインと和解した聖骸騎士や魔女を惨殺、または籠絡しけしかける。
- ・グロリアとカインが交流を持った周囲の人間を徹底的に排除する。
- ・至高の歌姫マティルダの能力を使い、周囲の環境そのものを絶望に染め上げる。

# 叙情と残酷のハイライト — 旋律が紡ぐ意味の反転

本作のストーリーは、1つのエピソード内でグロリアが「同じ歌（歌詞）」を2～3回披露する構造を持っています。

## 【カタルシスのメカニズム】

歌と歌の間に凄惨な人間ドラマが挟まれることで、観客（読者）の持つ歌詞の解釈が180度反転します。

- ・反転例①：一見すると問の抜けたギャグのような歌詞。  
→（真実の発覚）悲惨な現実をなんとか笑いに換えようと必死に足掻いた、人間の血の滲むような葛藤の歌だった。
- ・反転例②：初見では美しく感動的な愛のバラード。  
→（裏切りの発覚）愛憎渦巻くドロドロの嫉妬劇であり、最後は凄惨な横恋慕の歌へと変貌する。



人間ドラマの介在による意味の反転



# 結末へのヴィジョン —— 救済と虚無 (The Climax)

## 【最果ての聖地での決着】

ジュダスはカインの過去（弟殺しの罪）を暴露する。しかし、格下であるはずの聖骸騎士マックスの怒りの一撃がジュダスに直撃。無傷を誇ったジュダスの身体から漆黒の鮮血が舞う。激昂しマックスにトドメを刺そうとするジュダスの剣を、カインが身体を張って止める（決闘ルールの逆手）。

## 【真なる救済】

グロリアは過去の罪をすべて受け入れた上で、カインの存在を肯定する歌を紡ぐ。己の罪と向き合えたカイン、そしてグロリアは光に包まれ【昇天＝救済】する。それを見たマティルダもまた「彼に課した試練が二人を昇華させた」とジュダスを賛美し、狂信のまま昇天する。

## 【残された者たち】

- ・魔女と聖骸騎士：生という呪いの中で、互いを護りながら現世を生き抜くことを決意する。
- ・ジュダス：愛する歌姫も、執着した宿敵も失い、「本当に…何も分かってないな」と呟きながら、一人真の孤独の中で虚空を見上げる。

死（昇天）が救済となり、生（不死）が呪いとなる。  
強烈な余韻を残し、エンドロールへ。

